

授業実践記録(道徳)

日時 平成22年2月10日(火) 6校時
 場所 札幌市立新琴似北小学校
 児童 札幌市立新琴似北小学校4年2組
 題材 必ず生きて帰る～飢えと病気の戦場～
 指導者 教諭 檜 岳樹

	教師のかかわり	子供の活動・反応
導 入	<p>前時までの学習を振り返る。</p> <p>ガダルカナル島での星さんの願いを、挿絵を通して考えさせる。</p> <p>浦臼に無事に帰ってきた星さんが「自分だけ生きて帰るのはつらくなりました。」という文章を読む。</p> <p>学習問題を生む。</p>	<p>前時までの学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物なくて、大変だった。 ・病気になること人も出ていた。 <p>星さんの思いを考え、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く家族に会いたい。 ・日本に帰って食事がしたい。 ・おいしくない草も食べないといけない。 ・幼い子供たちと遊びたい。 ・必ず生きて帰る <p>本文の朗読を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしてつらかったのだろう。 ・うれしいはずじゃないの。 ・生きて帰れてうれしかったのではないの。 <p>学習問題を把握する。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 生きていたのに帰ってくるのがつらかったのはどうしてだろう？ </div>	
展 開	<p>星さん自身の視点から他者の視点に変える。</p> <p>・「自分だけ」はうれしいのではないかと切り返し発問をする。</p>	<p>自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間は死んで、自分だけ生き残ったことは残念なことだから。 ・仲間も同じ思いだったはずなのに、自分だけ生き延びたから。 <p>他者の立場から、星さんが生きて帰ってきたことを考えて、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・星さんはリーダーだったから、仲間を助けたかったはず。 ・仲間たちも、星さんのように家族と会いたかったはず。 ・仲間にも、待っていた家族がいたはずだから。

終末	<p>待っている家族の思いを考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが死にたくないわけだし、日本に帰りたいと思っていた。 ・みんな「必ず生きて帰る」と思っていた。 <p>家族の思いを想像して発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きているか、情報がないため困っていた。 ・手紙も出せないから、家族も不安だったはず。 ・どこにいるのかわからず、心配だった。 ・生きて帰ってきてほしい、会いたいと思っていた。
	<p>星さんは、仲間や家族のつらい気持ちがよくわかっていたから、とてもつらい気持ちになったんだ。</p>	
	<p>星さんからのメッセージビデオを見ることを通して、その後の星さんの生き方を考えさせる。</p>	<p>星さんのVTR映像を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気そうなおじいちゃんだった。 ・とても戦争に行っていたとは思えないような明るさだった。 ・不幸せなことがあったようには思えない。 ・幸せそうな姿だった。 ・仲間の分まで長く生きようとしていた。 ・強い思いがあれば、運命は変えられると考えていた。 ・生きることは自分のためだけでなく、家族や仲間のためでもある。
<p>現在の星さんは、仲間の分まで一生懸命生きようとしているんだ。</p>		
<p>星さんへの手紙を次時に書くために、本時の授業を振り返り、記録する。</p>	<p>本時の授業の振り返り、お手紙メモを作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対に生きて帰るという強い気持ちが大切だと思った。 ・仲間を大切にすることを大切にしていきたい。 ・運命を強い意志で変えていきたい。 ・仲間の分まで生きようとするのはすごいと思った。 ・元気よく生活し、自分の命を大切にしたい。 	